

しおみ

# 潮見地区

面積：6.73 km<sup>2</sup>

人口：10,633人（高齢化率 25.6%）

世帯数：4,772世帯

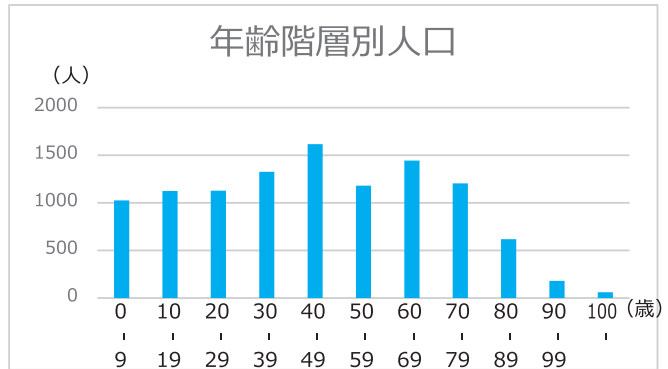


## 【地区の特色】

「潮見」という地名は、その昔、この地方が台風かあるいは大地震のような天災に見舞われ、大津波がこの辺りまで押し寄せ、村人たちは山に駆け登って難を逃れ、日夜潮の動静を窺ったことに由来しているといわれており、地域には神社・仏閣・史跡など多く伝説や民話も数多く残っている。また「宮内伊予柑」の原産地であり、柑橘栽培の立地条件にも大変恵まれていて、昭和40年頃より全国に誇れる特産品の地場産業として大きな役割を果たしている。



世代間交流会の様子



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い地域への新しい世代の参加がスムーズ ・自然が豊か、大川沿いには野鳥が多い</li> <li>・高齢者の年齢が松山市平均と同じくらいである</li> <li>・伝統文化の継承ができています</li> <li>・生活関連施設に恵まれている ・学区の人气が高く他地域からの転入も多い。</li> <li>・農家も多いが今後の継承もできています ・自転車で移動可能な範囲が広い</li> <li>・県営、市営住宅がある ・学社融合（小、中、公民館）</li> <li>・もちつきなど三世代交流の行事がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアへの参加が積極的でない（決して人情的に希薄という訳ではない）</li> <li>・地域活動に若者の参加が少ない</li> <li>・地域組織の役員になり手が少ない</li> <li>・勤労世代間の交流が少ない</li> <li>・一部交通の不便な地域、街灯の少ない危険な地域がある</li> <li>・下水道不整備なところがある</li> <li>・川の近くに災害時避難所がある</li> <li>・大雨時に浸水や、土砂崩れの恐れがある危険地域がある</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事への参加が限られた人になりがちである</li> <li>・県営、市営団地内の情報把握が難しいことがある</li> <li>・独居高齢者の増加</li> <li>・高齢者の見守りや在宅医療の支援が困難</li> <li>・入居施設の不足</li> <li>・空き家問題</li> </ul>

## 潮見地区社会福祉協議会

しんせつでおもいやりあるみんなの潮見

構成団体	地区民協・公民館・支所・議会・高齢クラブ連合会・中学校・小学校 町内会・交通安全協会・日赤奉仕団・母子会・PTA・自主防災連合会	
主な取り組み	活動内容	
高齢者が楽しめる 場づくり（各種大会）	地域の高齢者の方の楽しみ場の場づくりを目的に、各年1回ずつ潮見小学校グラウンドなどを活用し、グラウンドゴルフ・ペタンク・ゲートボール大会を主催しています。	
世代間交流会	親子三世代にわたっての交流を促進することを目的に、もちつきなどのイベントを開催しています。	
配食サービス	一人暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に日赤奉仕団の方々と連携して、お弁当の配布を行っています。	

## 福祉のつどい

地区内に暮らしている独居高齢者を対象とした「福祉のつどい」を公民館で開催しています。大学の落語研究会による落語やゲームなど会場全体が楽しめる内容となっております。



## &lt;地区社協が目指すもの&gt;

潮見地区では平成27年3月に地域福祉活動計画を作成し、①地区社協の基盤整備 ②福祉学習とボランティア ③在宅福祉 ④関係団体との協働を基本に、住民の方々の主体的参加による活動を進めております。

目標テーマの「しんせつで、おもいやりある、みんなの潮見」を目指し、地域における人と人とのつながりを大切にして、互いに笑顔で声かけあい、助け合いの心のあふれる、住みよい潮見地区となるよう、より一層の協力・支え合いに取り組んでまいります。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	20名 2名	■町内会・自治会・区長会等	8団体
	■まち協の設立	平成24年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5クラブ 15団体 20組織

本地区は、自然豊かな地理的条件に囲まれ、伝統文化・歴史的な史跡・神社等を守り続ける風土がある一方、転入者及び新しい世代が地域にとけ込みやすい受容的な地域性と複数世代が暮らしやすい風土を有しています。地区社協が積極的に取り組んでいるスポーツ競技での住民交流をはじめ、地区社協が地域の団体とともに進めている「様々な世代が地域活動に参加しやすい環境づくり」のさらなる進展が望まれます。また、豊かな自然は様々な恩恵を与えてくれる一方、災害時のリスクも懸念されるため、地域全体でその対応（組織づくりや社会資源の活用）が必要となるでしょう。

ココがポイント



ひさえだ

## 久枝地区

面積：4.89 km<sup>2</sup>

人口：20,354人（高齢化率 24.0%）

世帯数：9,189世帯

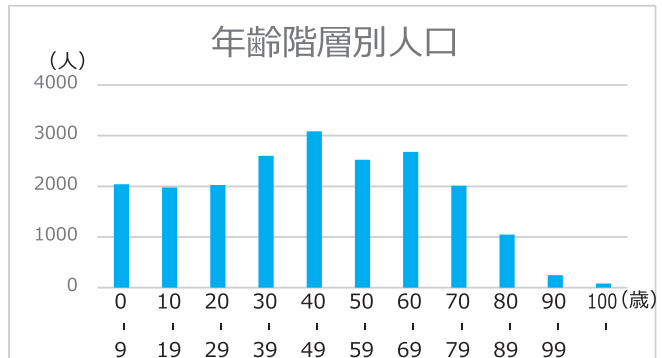


## 【地区の特色】

久枝地区は、松山城の北西の方向にあり東西約 2km、南北約 4km の長方形のような形をしている。かつてはのどかな田園地帯であったが、市街化区域に指定されてからは南は住宅地域、北は農業地域、中央付近には工場が建ち並ぶように変貌してきた。バイパスや県道が縦横に走り、多くの企業をはじめ、学校・病院・マンションや住宅等が建ち並ぶ町となった。近年、人口が増え、交通の便も良くなってきたこともあって、居を求めてくる人々が多くなる傾向が見られる。



眼下の中央卸売市場



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の登下校の見守りを地域の人が行っている</li> <li>・地区の行事が多い</li> <li>・良い意味で田舎であるが交通のアクセスは良い</li> <li>・良い人が多い ・子どもがよく挨拶してくれる</li> <li>・生活がしやすい</li> <li>・伝統文化を大切にしている</li> <li>・中央卸売市場がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい住民が地域の行事になかなか参加してくれない</li> <li>・久枝公民館がせまく、集会所には駐車場が少ない</li> <li>・バスの本数が少ない</li> <li>・交通量が多い</li> <li>・久万川の水害が不安</li> <li>・空き家、休耕地や耕作放棄地が多い</li> <li>・街灯が少ない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会の時に高齢者の年齢制限があって参加できない</li> <li>・町内会に入る世帯が減っている ・子どもの減少</li> <li>・老々介護の増加</li> <li>・各団体の役員のなり手が少ない ・福祉を支える人が少なくなる</li> <li>・県道の交通量が多く危険 ・ため池があり安全面の不安</li> <li>・空き家が増加している ・災害時の避難ルートの確保</li> <li>・久万川が汚れている</li> <li>・イヌネコの糞害 ・ゴミ置き場のカラス被害</li> </ul>

## 久枝地区社会福祉協議会

人いきいき 誰もが住みたい 久枝に

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・支所		
主な取り組み	活動内容		
サロンの作品展示	公民館と連携し、地域の文化祭でふれあい・いきいきサロンで作られた手芸品等を展示しています。		
昔遊び集会 名人さんに学ぼう	地域住民が昔の遊びや名人芸などを伝え、小学生との交流の機会を図っています。また、児童館行事にも積極的に関わっています。		
独居高齢者訪問事業	地域内の一人暮らし高齢者を対象に日常生活の慰労を目的として地区民協と連携し、自宅を訪ねる活動を続けています。		

## 三世代交流もちつき

地域における福祉学習の一環として、毎年11月23日に地域内の多世代が交流できるイベントを実施しています。世代を超えたつながりを通じて、地元への愛着を高めてもらえればと継続した活動を行っております。



## &lt;地区社協が目指すもの&gt;

《城の西北 緑の丘に 名も久枝…》と小学校の校歌にも歌われてきた久枝地区です。都市化が進み、当時の田園風景を残しながらも住宅地区が増え、中央卸売市場を代表とする商業施設があり、小学校・中学校・高校・盲学校・児童館など教育施設も充実している街と自負しています。

そうした中、『人いきいき誰もが住みたい久枝に』を基本理念とし、何時でも気軽にお互いに声を掛け合い、おしゃべりをしたり助け合ったり、子ども達の成長を見守り、高齢者や弱者を気遣う、そのような久枝地区でありたいと願っています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	■まち協の設立	平成29年度	■高齢クラブ	3クラブ
			■子ども会	3団体
			■自主防災組織	15組織

近年、交通条件の整備等に伴い企業の誘致や様々な公的・生活施設が増加し、人口の増加が認められる地域です。新たにこの地域で生活をはじめた人々と長年の生活の場にしてきた人々が一体となって子どもや地域全体を守っています。そうした中、地区社協では地域住民と子どもたちをつなぐ活動が積極的に進められており、今後は、複数世代間の連携の強化や、地域住民の力を活用できるような地域組織づくり、それを基盤とした地域の自然および環境の把握を進め、より安全・安心に暮らせるような地域をつくりあげることがさらに期待されます。

ココがポイント





# わけ 和気地区

面積：7.09 km<sup>2</sup>  
人口：12,307人（高齢化率 28.7%）  
世帯数：5,512世帯

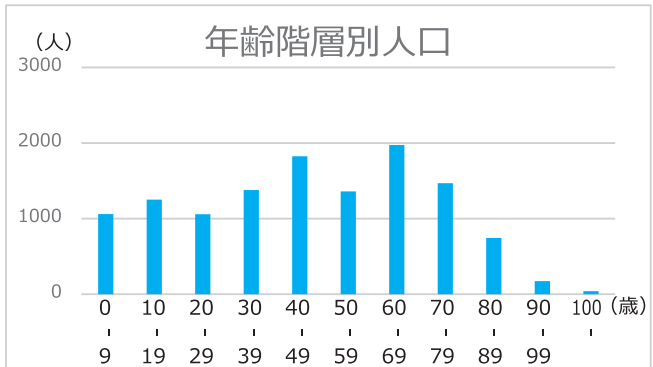


## 【地区の特色】

和気地区は、松山市の北部に位置し、かつては農業と漁業を中心とした地域であったが、時代の都市化とともに、企業をはじめマンションや住宅等が凌ぎを削りあうように建ち並ぶ地域となった。また、他地域からの転居者も増加し、住民意識も変化しつつある。しかし、日頃から町内会や各種団体は相互の親睦や連携がとれており、地域一体となった様々な活動が展開されている。



独居老人安否確認パトロール出発式



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関（公民館、町内会連合会、地区民協、病院、警察等）との連携が取れている</li> <li>・和気公民館のリーダーシップ ・青パトによる安全パトロール（毎月 5,15,25 日）</li> <li>・小中学校、みなら特別支援学校城北分校の福祉活動への協力体制が整っている</li> <li>・お接待、グループホーム訪問、独居老人安否確認パトロール</li> <li>・地区社協と地区民協との協力（地区民協の会合に参加）</li> <li>・宿泊体験学習、ウォークラリー（三世代交流）</li> <li>・和気っ子安全パトロールによる安心安全のまちづくりが行われている</li> <li>・福祉施設が多くあり、秋祭りには神輿を迎え入れてくれる</li> <li>・海の日の大声大会（1200人参加）による防災意識の強いまちづくり ・災害が少ない</li> <li>・地域の大きな行事が多く参加者も多い ・地域の団結力がある ・緑多き田園地域</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和気浜海岸が近いこと、南海トラフ地震への不安が大きい</li> <li>・子ども会が減っている ・児童の親との親睦が少ない</li> <li>・仕事をしている世帯の地域行事への参加が少ない</li> <li>・福祉活動に携わる年齢が高い</li> <li>・地域のつながりの希薄化が現在進行中</li> <li>・田舎なので夜間の道が暗い</li> <li>・休耕地、耕作放棄地の増加</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化により地域の負担が増大する</li> <li>・地区社協活動への理解</li> <li>・町内会で地域活動に温度差がある ・町内会の役員の引き受け手が少ない</li> <li>・現役世代の関わりが少ない ・興味のある行事にしか参加しない</li> <li>・一部、買い物や通院に不便な地域がある ・集いの場に行きたくても手段がない</li> <li>・隣近所の付き合いが希薄化しており、昔のような井戸端会議がなくなった</li> <li>・独居高齢者の把握が難しい ・公共交通の乗り物が少ない</li> </ul>

## 和気地区社会福祉協議会

安心・安全・笑顔<sup>わけ</sup>を和気よう！

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・公民館・共同募金会・小学校・中学校・支所・農協
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
独居老人安否確認 パトロール	一人暮らし高齢者を対象に、中学校の生徒が地域住民とともに高齢者宅を訪問し、高齢者の安否確認や地域での見守りの強化を図っています。
合同研修会	地区社協・地区民協、町内会連合会と連携を高めるため、毎年合同で研修会を実施しています。
放課後子ども教室への 協力・支援	地区社協の関係者が放課後子ども教室の支援を行っています。

## お接待

公民館と連携し、和気地区にある四国八十八ヶ所の札所「太山寺」から「圓明寺」に向かう道沿いに位置する和気公民館にて、毎月歩き遍路の人々をお接待でお迎えしています。

子どもたちによるお接待の日もあり、地区社協としても活動支援を行い地域での福祉学習を推進しています。



## ＜地区社協が目指すもの＞

和気地区社協は、高齢者、子ども及び障がい者への福祉を3本柱とし、公民館・地区民協・町内会連合会との連携を密にして地域福祉の推進に取り組んでいます。

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| (1) 独居老人安否確認パトロール     | (2) お接待                  |
| (3) 放課後子ども教室への協力・支援   | (4) 合同研修会（社協・民児協・町内会連合会） |
| (5) みなら特別支援学校城北分校との交流 | (6) グループホーム訪問            |

以上の事業を中心に今後も地域住民の方が安心・安全に暮らせる和気地区を目指しています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	21名 2名	■町内会・自治会・区長会等 ■高齢クラブ ■子ども会	22団体 7クラブ 1団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	26組織

本地区は、都市化など時代の波の影響を多く受けながらも、地区特有の「おせったい」の文化を生かし、地域住民と様々な機関が連携を取り合い、防災意識の向上や子どもたちへの福祉学習をはじめ、高齢・障がい・児童分野など活動が多岐に展開されており、現在、将来にわたり安全・安心に暮らせる地域づくりが進められています。今後は、その中で培われてきた「地域力」の維持または時代の変化に即した対応が望まれ、自然環境も含めたさらなる地域の社会資源把握、課題の抽出と対応が必要になると考えられますが、災害時にもその「地域力」が発揮できるような組織づくりがとても期待できます。

ココがポイント



ほりえ

## 堀江地区

面積：12.91 km<sup>2</sup>

人口：11,391人（高齢化率 29.6%）

世帯数：5,274世帯

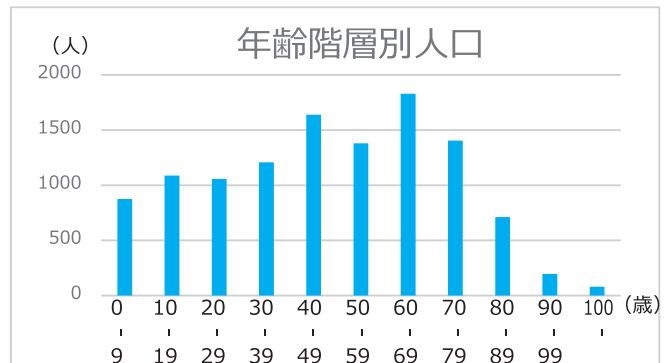


## 【地区の特色】

堀江地区は、「おだやかな堀江湾に明美な瀬戸の風景、神霊と史跡の宿る山並や心もなごむ出で湯、ほのぼのとした人情とあつい血潮の流れる人里」である。北谷古墳からもうかがえるように、古代から村落的な社会共同体が形成され、生活が営まれていた。そして、海路の要所として海からの文化がいぶき、人々の心に刻まれていった。現在は、地域の自然や歴史、文化などを生かした個性のあるふるさとづくりが活発に行われている。



まつやま・ほりえ海の駅「うみてらす」



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区コミュニティ会議の充実</li> <li>・公民館と小学校の学社融合がしっかりしている（かかし作り、しめなわ作り、国道の清掃活動）</li> <li>・サロン活動が充実している</li> <li>・愛媛マラソン時の事前清掃活動、小学生の希望者がカレー作りで応援</li> <li>・高齢者クラブの活動が熱心（男性料理教室）</li> <li>・医療機関の充実</li> <li>・スポーツの街</li> <li>・海、山があり、空気がきれい</li> <li>・自主防災活動の充実</li> <li>・中学校への地域の対応</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の中には各行事の実施にあたり横の連携が不足しているところもある</li> <li>・各団体の役員のなり手がいない、新しい加入者も少ない（高齢クラブでは会長のなり手がいないため休会となるケースが出ている）</li> <li>・交通の便が悪く生活に不便な地域がある</li> <li>・坂が多い</li> <li>・海が近いため、災害に不安（海拔0メートルの所がある）</li> </ul>
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会がない集合住宅地ができた（約150世帯）</li> <li>・災害援助活動について、自主防災組織、地区民協、消防との連携が必要</li> <li>・各団体の役員のなり手が少ない</li> <li>・消防団員の確保が難しい</li> <li>・空き家が増えてきた</li> <li>・独居高齢者の増加、若い夫婦・子どもの減少</li> <li>・新しい住人を地区の行事に迎え入れる方法を検討する必要がある</li> <li>・大きな障がい者施設の現状が把握できない</li> <li>・元気な高齢者が活躍できる場が必要</li> <li>・海の近くに福祉施設があり災害時心配</li> <li>・昔の川の氾濫を忘れて防災の意識が低い</li> </ul>

## 堀江地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・議会・中学校・小学校・PTA 郵便局・農協・消防分団・支所・交通安全協会・母子福祉会・教育会・遺族会 区長会・駐在所	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
独居高齢者 権現温泉招待	一人暮らしの高齢者を権現温泉へ招待し親睦を図っています。	
学校における 福祉学習の支援	地区内の小・中学校と連携し、地域の美化、海岸の清掃活動、共同募金の街頭募金への様々な社会体験を提供できるよう支援しています。	
地区社協会費制度	堀江地区社協は地区社協会費制度を導入しており、貴重な福祉事業の財源となっています。町内会と連携することで福祉活動への理解の拡大に努めています。	

### 手作り作品展

まちづくり協議会や公民館と連携し、サロンや介護施設・障がい者施設で作られた製作物の展示会を行っています。

地域の民生委員・児童委員さんによるお茶のおせたいもあり、展示作品を見ながらの交流の場になっています。



### <地区社協が目指すもの>

地区の高齢クラブとの交流、グラウンドゴルフや小・中学校との交流、美化活動、道路のゴミ集め、公民館やコミュニティ会議との連携活動、歩こう会、遺跡めぐり、うみてらすの活動のほか、自主防災会との訓練等に積極的に参加協力し、地区内の各団体や機関との連携強化を図るとともに、福祉活動を通じて住み慣れた地域で堀江地区の住民の皆さんが安心して生活できるようなまちづくりを目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	17名 2名	■町内会・自治会・区長会等	20団体
			■高齢クラブ	7クラブ
			■子ども会	4団体
	■まち協の設立	平成18年度	■自主防災組織	24組織

長い伝統と豊かな自然を有した本地区は、各構成団体と地区社協が連携し、地域に根ざした様々な活動を行ってきた経緯があり、その中で、本地区固有の「地域力」を高めてきました。一方、時代の流れと共に地域を構成する世帯の変動もあり、今後はこれまで培った「地域力」を基盤に、地区内の関係団体と連携し、複数の世代間の理解促進と、各世代の生活スタイルを考慮した地域活動を担える組織づくりが期待されるでしょう。また、高齢者・障がい者等の福祉施設も多い地区でもあることから、災害時においても全ての世代を守るための新たな組織づくりや既存の社会資源の活用についても期待します。

